

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第二5:18~21 「和解の務め」

[18]「これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました」

「これらのこと」とは今までパウロが語ってきた神の救いのみわざ、すなわち、イエス・キリストによる救いにかかわるすべてのことを指している。「わたしたち」とは直接的にはパウロやその同労者、使徒たちを指すが、さらに広い意味ではすべてのクリスチャンたちを意味する。最初の間人間アダムとエバが神の前に罪を犯して以来、人間は神との敵対関係に陥った。しかし、神はそのような人間をお見捨てにならず、救いの計画を用意してくださった。それがイエス・キリストなのである。

[19]「すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです」

罪のない神の御子の死は、すべての人間の罪を贖うための身代わりの死であった。誰でもこのイエスの死は私の罪のためであったと心から信じ、このお方を自分の救い主と信じる者は救われ、神と和解し、神のものとされ、永遠の天の御国へ入る者とされる。これらすべては神の側がなされたことであり、人間の側の働きによるものではない。神はそのまま人間を罪の状態に放置し、全員を滅びに入れることもおできになったが、そうはなされなかった。ここに神の愛と恵みといつくしみがある。そしてそのための和解の務めを神はクリスチャンたちに委ねられたのである。

[20]「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい」

「キリストの使節」とはキリストに代わって神の和解を受け入れるようにと語る使者のこと。世の一般の宗教は神仏に対して人間の側が何事か願い事をするのが普通。しかし、聖書は神が人間に対して懇願している。その内容は「神の和解を受け入れなさい」である。この神の謙遜、へりくだりは神が人間となってこの世に来てくださり救いの道を用意してくださったというところにはっきりと表れている。そして神は今、キリストに代わってその使節であるパウロたちを通して懇願しておられる。これは直接的にはコリント人たちに対することばであるが、今日ではそれを受け継いでいるすべての信仰者たちに委ねられている使命である。

[21]「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです」

「罪を知らない」とは罪に少しも汚されていないという意味で、神の御子としてのキリストの無罪性を示している。人としてこの世に来られたイエス・キリストは地上で人間として生まれ、様々な誘惑にも会われたのに罪には染まられなかった。このお方は神のみこころにかなう義なるお方であった。しかし、神はこのお方を私たちの代わりに罪とされた。すなわち私たち人間の身代わりとして、私たちの罪を背負わせ、私たちの罪のために罪そのものとされて、罪の刑罰を受けさせられた。

それは「私たちがこの方であって神の義となるため」であった。
これほどまでに大きな犠牲を払って、神は私たちを救ってくださるのである。
私たちはこの神の愛の懇願である「神の和解を受け入れなさい」とのことばを受け
入れない理由があるだろうか。